

渋谷区トンネル長寿命化修繕計画（第2次計画）

令和7年8月
渋谷区 土木部 緑道・道路構造物課

計画策定の背景と目的

背景・目的

- 高度経済成長期ごろに整備された公共施設の老朽化が一齐に進行。
- 渋谷区管理のトンネルにおいても、**維持管理費用の増大が懸念**される。
- これまでの**予防保全型管理を継続することで、安心・安全の確保と財政負担の軽減・平準化**を図る。

対象施設の現状

対 象

2号トンネル

供用開始：昭和9年（1934年）
交差条件：区道



千駄ヶ谷トンネル

供用開始：昭和39年（1964年）
交差条件：民地



本町トンネル

供用開始：昭和50年（1975年）
交差条件：都道



現 状

- 2号トンネルは、令和7年度に更新。
- 千駄ヶ谷トンネル及び本町トンネルは、令和5年度に実施した点検の結果、**健全性Ⅱ**（予防保全段階）と区分され、緊急性がないことを確認。
- 今後の点検結果等により、必要に応じて、ひびわれや耐震補強などの対策を実施。

【点検で発見された損傷の一例】



千駄ヶ谷トンネル



本町トンネル

基本方針

方針1：老朽化対策に関して

点検による健全性の把握と、適切な補修（予防保全対策）

【点検の種類】

- 定期点検
5年に1回、有資格者にて実施
- 職員点検
年に1回、渋谷区職員にて実施
- 緊急点検
災害時等、渋谷区職員にて実施など



対策前



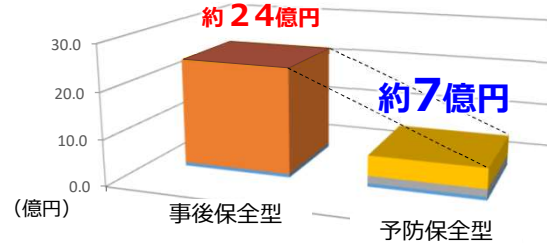
対策後

内部鉄筋が腐食・膨張し、
コンクリートが剥落

内部鉄筋の錆止めを行い、
剥落箇所を修復

方針2：費用の縮減に関して

予防保全型管理の継続による全体コストの低減



■ 耐震補強 ■ 更新
■ 補修 ■ 点検・計画改定

約17億円（約70%）の
コスト縮減

期間：R7年度～R36年度

※この概算事業費は現段階における試算であり、今後の定期点検による損傷状態や技術基準の改定、社会情勢の変化などにより変動します。

方針3：耐震補強に関して

耐震性能の把握と耐震性の確保

【実施フロー】



今後の予定

※ 3施設とも、点検結果に応じた予防保全対策は適宜検討

施設名	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
2号トンネル	更新	初回点検								
千駄ヶ谷トンネル	耐震性能照査	補修・耐震設計		補修・耐震工事						
本町トンネル				補修・耐震設計		補修・耐震工事				
共通				定期点検	計画改定				定期点検	計画改定